

足利大学 後援会 会報

第69号

発行

足利市大前町268-1

足利大学後援会

ご挨拶



足利大学後援会 会長

阿部 誠

足利大学後援会会員の皆様には、日頃より後援会活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、六月二十日に開催されました令和八年度足利大学後援会総会におきまして、ご承認いただき、後援会会長の大任を拝命いたしました阿部でございます。責任の重さを感じるとともに、学生たちがより充実した大学生活を送ることができるよう、後援会として精一杯努めてまいりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度は五回の理事会を開催し、理事の皆様から多くの貴重なご意見やご提案をいただきました。後援会は、家庭と大学が緊密な連携を図り、学生・保護者・大学関係者が協力しながら、学生の福祉の増進と本学の教育目的の達成を支援することを目的として活動しております。

今年度も事業計画に基づき理事会を開催し、会則に掲げる理念のもと、学生生活の充実と福祉の向上を図るとともに、本学の教育活動を支援してまいります。

大学生生活は、専門的な知識や技術を学ぶだけでなく、多くの人との出会いや様々な経験を通して、人間的にも大きく成長する大切な時期です。一方で、社会環境は急速に変化しており、学生を取り巻く環境も大きく変わり続けています。その中で、学生が安心して学び、さまざまなことに挑戦できる環境を整えることは、私たち後援会の重要な役割であると考えております。

昨年度は、学生教育研究災害障害保険の保険料負担、大学が推奨する資格試験合格者への検定料補助、クラブ・委員会活動への援助、看護学部実習宿泊費や研究補助交通費の支援、卒業アルバムの贈呈、保護者向け就職ガイドブックの作成、「朝食サポート」事業への助成、わたらせ祭に伴う提灯照明仮設工事の補助、本城キャンパス屋上看板設置、ベンチの設置・塗装など、さまざまな支援事業を実施いたしました。

置、ベンチの設置・塗装など、さまざまな支援事業を実施いたしました。

今後とも大学と十分に連携を図りながら、理事会で協議を重ね、学生たちがより充実した大学生活を送れるよう支援を続けてまいります。

昨年の「わたらせ祭」は天候に恵まれ、多くの皆様にご来場いただき、大変盛況のうちに開催されました。今年開催される「第五十八回わたらせ祭」も、さらに充実した催しとなることが期待されます。ぜひ多くの皆様に大前キャンパスへ足をお運びいただき、学生たちの活躍をご覧いただければ幸いです。

結びに、会員の皆様のますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本学のさらなる発展と、学生の皆さんが実り多い大学生活を送られることを願い、ご挨拶とさせていただきます。



退会役員

長期にわたり、後援会にご尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございました。

理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	監事
若井 周平 様	相澤美佐子 様	櫻井 麻美 様	町田 忍 様	福地めぐみ 様	岡田 誠 様	八幡 孝行 様	上野ゆり子 様

アクションプランの節目 ACT 2026!



学 長

末 武 義 崇

後援会の皆さまには、日頃より足利大学の教育・研究に対し、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。栃木県南部、足利の地に立地する我が足利大学を取り巻く環境は、より一層厳しさを増しております。この難局を乗り越えるべく、大学全体で組織改善の努力を重ねているところです。

一昨年、大学のホームページをリニューアルし、学長としてのアクションプラン「ACT 2024」を公表させていただきました。"カーボンニュートラル(CN)に繋がる教育"、"デジタルトランスフォーメーション(DX)に繋がる教育"、"国際交流に繋がる教育"の3つの柱を主軸としたアクションプランです。今年はこのアクションプランを立ち上げて3年目となります。当初から、アクシ

ョンプランは3年間を目途に一区切りと考えてきましたので、今年度の「ACT 2026」が一つの節目になります。アクションプランの総括につきましては、令和8年度が終了した段階で取り纏めるつもりですが、今回は昨年度までと同様に、上記3つの柱に関する直近の情報を整理し、報告させていただきます。

まず、「ACTION 01 CN(SDGs)に繋がる教育」です。本学は、再生可能エネルギーに関する長年に亘る教育・研究の蓄積を活かし、2023年度から大学独自の認定プログラム「足利大学カーボンニュートラル(CN)教育プログラム」を開設しております。昨年度、2025年度までに総計163名の学生が修了認定を受けています。また、今年の6月25日、

26日の二日間に亘って、恒例となっている「風力エネルギー利用総合セミナー」を開催しました。今年で四半世紀を超える26回目を迎え、116名の参加者を集め盛況のうちに幕を閉じることができました。

次に、「ACTION 02 DXに繋がる教育」です。数理・データサイエンス・AI教育に関する優れた教育プログラムに対する文科省の認定制度、MDASHについては、本学は令和3年度に「リテラシーレベル」、令和6年度に「応用基礎レベル」の認定をそれぞれ受けております。これまでに、「リテラシーレベル」については工学部・看護学部合わせて1214名、「応用基礎レベル」については工学部だけが対象ですが、総計152名の学生が修了認定を受けています。また、令和6年度からスタートした足利市内の企業のDXをお手伝いするゼミ科目「地域DX化教育プロジェクト」も順調に継続しております。

三つ目の「国際化に繋がる教育」については、恒例となっている米国、台湾、フィリピンの姉妹校への短期交換留学を継続するだけでなく、教員同士の交流も進めております。昨年度は、イリノイ州立大学スプリングフィールド校(UIS)および中華医事

科技大学(HWAI)との間で、本学および先方の教員のオンライン授業コンテンツをそれぞれ提供し合い、双方の学生に視聴してもらいました。いずれも双方の学生に好評で、本学の国際交流も新

たな一歩を踏み出すことができました。教職員一同、学生の多様な力を育むべく着実に実績を積み重ねております。今後とも、後援会の皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

2026年度に向けた 工学部の取り組み



副学長兼工学部長

安 藤 康 高

後援会の皆様には、平素より教育、研究、就職に関するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年度は、対面授業に戻って三年目を迎え、コロナ禍前の活気が完全に戻って参りました。10月に開催されたわたらせ祭も、2025年度実行委員及び関係者の皆様のご尽力のおかげで、2024年度同様、成功裏に終了しました。オープンキャンパス(以下、OC)は、通常のオープンキャンパスに加え、参加が難しい遠方の受験生やご家族の皆様にも

情報を提供すべく8月、9月にオンラインによるOCを開催し、より多くの方々に足利大学を紹介する事ができました。

本年度(2026年度)も、本格的な広報活動は既に始まっており、5月に体験型OC、6月に工学部OCの開催と、順調なスタートを切っております。特に、工学部OCの午後に各コースで開催された、受験生参加者と在学生がフリーディスカッションを楽しむセッション「先輩と話す、体験する、工学部のリアル」は、参加者の方々から高

評価を頂く事ができ、本学並びに本学学生の皆さんの魅力を参加者の皆さんにお伝えする事ができました。

教育については、2024年度より「デジタルトランスフォーメーション(DX)」、「カーボンニュートラル(CN)」、「国際交流」の三つの柱を主軸とするアクションプランに基づいた教育コンテンツ作成及びシステムの構築に、教職員一同努めております。DX教育に関しては、本学は文部科学省認定プログラム「MDASH」の「リテラシーレベル」、「応用基礎レベル」に認定されており、工学部の2025年度合格者(リテラシーレベル)187名、「応用基礎レベル」81名)には文部科学省が承認する認定証が授与されました。「応用基礎レベル」は、全国でも388校(うち私立大学では182校)しか認定されていないプログラムであり、合格者は全国的にみても高度な知識を身につけているといえます。また、CN教育に関しては、本学の再生可能エネルギー研究・教育のノウハウを体系化した「CN教育プログラム」を2023年度より開講しており、2025年度の合格者84名に大学発行の認定書を授与いたしました。国際交流についても、UIS(イリノイ大学スプリング

フィールド校)やMMSU(マリアノマルコス州立大学)などの協定校とは、交換留学や教育プログラムを通じ有意義な関係を継続しております。また、2026年2月には、本学サッカー部に所属する8名が栃木県大学サッカー選抜メンバーに選出され、タイ王国にて現地のプロチームと試合を行って参りました。

2025年度に新設された「ライフデザインコース」では、第一期生が、教養科目を中心とした1年次のカリキュラムを3月に終了いたしました。授業第1週にサイエンス系の科目で行われた光アートの制作は、現在も足利大学ホームページの「おしらせ」から2025年4月22日の記事として閲覧が可能です。この授業の内容は、一部再構成のうえUISに動画画教材として提供されており、現在UISの環境化学系授業にも活用されております。

以上、工学部の近況を報告させて頂きました。今後も学生の皆さんに充実した学生生活を送って頂けるよう、努める所存にございますので、後援会の皆様のご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

「地域とともに」

歩む看護学部」



看護学部長

中村 史江

看護学部は開学十三年目を迎え、これまでに第九期生までの卒業生を輩出し、同窓生は七〇〇人を超えるまでになりました。本年は連続テレビ小説『風、薫る』が放送され、近代看護の礎を築き、看護職の専門性と社会的地位の確立に尽力した先人たちの歩みとともに、看護教育の重要性があらためて広く認識されております。

福祉の現場で広く活躍しています。また、養護教諭一種免許を取得し、看護の専門知識を生かして教育現場で力を発揮している卒業生もおります。こうした状況を踏まえ、安足地区唯一の私立大学看護学部として、本学部が地域社会において果たすべき役割の大きさを、あらためて実感しております。

看護専門職は、人々の生命と生活を支える、極めて専門性の高い職業です。専門的な知識と技術に基づき、医療チームの一員として診療の補助や療養上の世話をを行うとともに、患者の心身のケアや自立支援を担っています。本学部においても、多くの学生が看護師・保健師免許を取得し、その約半数が本県内の医療機関や行政機関等に就職し、地域の保健・医療・

本学部では、建学の精神である「和を以て貴しと為す」を基本に、高い倫理観と人との調和を大切にしながら、科学的根拠に基づく看護を実践できる「心ある看護者」の育成に努めております。八つの専門領域を体系的に学ぶ教育課程で、これまでの高機能シミュレーターに加え、小児(乳児)への医療的ケアやBLSのトレーニング、医療的ケア児への支援を学ぶためのモデルも導入し、より実

践的な教育環境の充実を図っております。また、地域完結型医療や地域包括ケアシステムに対応できる人材の育成を目指し、地域との連携を重視した学びの機会を設けています。ボランティア活動では、足利赤十字病院の病院祭に一年生が参加し、地域貢献の意義を学ぶ貴重な体験を得ることができました。さらに、社会人基礎力を高めることを目的としたキャリア講座、台湾や米国等との国際交流など、多様な経験と多くの方々との交流の機会を設けております。

近年、看護基礎教育においてもICT教育の拡大が見られ、本学部でも今年度の新入生から電子テキストを導入しました。政府は医療DXの推進として、病院の電子カルテを2030年までに普及率100%とすることを目指しています。今後も臨床現場のDXに対応できる人材の育成と、学生の学修効率の最大化を目指して取り組んでまいります。

以上、簡単ではございますが、看護学部の近況についてご報告申し上げます。今後とも、後援会の皆さまにおかれましては、変わらぬご支援とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

工学部教務の取り組み



工学部 教務委員長

加治屋 大介

後援会の皆様には、平素より
 本学の教育活動に対し格別のご
 支援を賜り、心より御礼申し
 上げます。工学部では、建学の
 精神である「以和貴為（和を以
 て貴しと為す）」を根底に、人、
 工学、自然環境、社会環境との
 調和を目指し、工学に関する教
 育・研究を行っております。「心
 あるエンジニア」を育成すること
 を目標とし、三つのポリシー（ア
 ドミッション・ポリシー、カリキュ
 ラム・ポリシー、ディプロマ・ポリ
 シー）を定め、それらに基づく
 教育課程および授業科目の実施
 と改善を進めております。

令和七年度工学部卒業生の
 達成度自己評価アンケートによ
 りますと、大学入学時に比べて
 卒業時に「使命感」や「情報
 収集力」等が特に向上したとい

う結果が得られました。また、

文部科学省の全国学生調査に
 おいても、本学は「課題等の提
 出物へ適切なコメントが付されて
 返却される」「教育アシスタント
 などによる補助的な指導がある」
 「数理・統計・データサイエンス
 に関する知識・技能が身に付い
 た」「授業アンケート等の学生
 の意見を通じて大学教育が良くな
 っている」といった項目で、全
 国平均を上回る評価を受けてお
 ります。引き続き、工学教育
 機関として学生により良い教育
 を提供できるよう取り組んでま
 いります。

さらに令和七年度より、学習
 支援室の教職員一同の尽力によ
 り図書館1階も活用し、数学
 や英語の専門的な学習支援体
 制が強化されました。教養科目

におきましても、学長が直接担
 当する「足利大学と足利」とい
 う科目が新たに開講されており
 ます。足利市や足利地域で第一
 線で活躍されている錚々たる社
 会人の諸先輩方から毎回生のお
 話を伺い、地域を知り、地域を
 盛り上げるための科目としてス
 タートいたしました。多大なる
 ご協力を賜りました事業者・関
 係各位・地域の皆様に、厚く御
 礼申し上げます。

令和八年度は、ライフデザイ
 ンコースが新設から2年目を迎
 えしました。一期生が順調に学び
 を進めるなか、今年度はさらに
 多くの新入生を迎え、活気に満
 ちた二期目の教育が進行してお
 ります。また、専門共通科目「地
 域DX化教育プロジェクト」は、
 IからIVまでの四科目に拡充さ
 れました。足利大学データサイ
 エンス・AI教育プログラムにお
 きましても、令和八年度から引
 き続き3年間のMDASH（リ
 テラシーレベル）の認定を、MD
 ASH（応用基礎レベル）の認
 定は令和六年度に受けておりま
 す。今後も社会の要請に応じ
 た教育プログラムの充実を図り、
 専門的知識と実践力を兼ね備
 えた人材の育成に努めてまいり

ます。

足利大学ホームページにも掲
 載しております通り、令和九
 年度に向けて新たなコース設定
 およびカリキュラムの改編準備も

着実に進めております。引き続
 き、工学部の教育活動に対しま
 して、皆様のご理解とご支援を
 賜りますよう、何卒よろしくお
 願い申し上げます。

工学部における 学生支援の取り組み



工学部 学生指導委員長

根本 泰行

後援会の皆様には、日頃よ
 り学生活動に様々なご支援を
 賜り、心より御礼申し上げます。

さて、近年、学生が就職活
 動を行う際、面接で必ずとい
 っていいほど質問される項
 目があるようです。それは
 「ガクチカ（Ⅱ学生時代に力
 を入れたこと）」と呼ばれて

います。わたしたち工学部学
 生指導委員会の役割の一つ
 は、学生が大学生活を通じて
 行う、まさにこの「ガクチ

カ」を支援することであると
 も言えます。大学生活の4年
 間に、学生が楽しい体験を
 し、力を入れて何かの活動を
 行い、よい友人関係を育み、
 そのことが社会での活躍に繋
 がっていくとすれば、わたし
 たちとしてもこんなに喜ばし
 いことはありません。

そのために当委員会では、
 学生の声を聞きながら、日々
 のクラブ・サークル活動、学
 生自治会主体で開催される学
 生交流会・球技大会、そして

活動の集大成となるわたらせ祭（学園祭）など、様々な学生生活のサポートを行ってまいります。また、学生の大学生活がよりよいものになるよう、学生満足度調査（アンケート）を実施するなどして、学生の声を大学側に届ける役割も担っています。

に対する就学支援や、心身に問題を抱える学生に対する保健指導・カウンセリングを行ってまいります。これに加え、頑張った学生がいれば表彰し、間違った行動をする学生に対しては適切な指導を行い更生に導くのも委員会の役割となります。

学生の大学生活の改善にあたっては、後援会の皆様のご支援にも大変助けられています。昨年度はご支援を受け、既存のベンチの補修をさせていただくとともに、新たに複数台のテーブル付きベンチを購入させていただきました。これらのベンチは、ピロティ（本館横のスペース）や図書

また、本学では、毎年九月と三月に、学生・保護者の皆様と教員が面談する教育相談会を実施しております。保護者の皆様にはぜひご来学いただき、学生の皆さんの大学での様子や、ご家庭での過ごし方について情報交換させていただければ、と存じております。

館横に設置され、昼食時や休憩時における学生の貴重な憩いの場になっています。また、わたらせ祭（学園祭）の運営費についてもご支援いただきましたが、これは事前の準備や当日の展示・成果発表を通じて成長する、学生たちの活動に直接役立つものになっております。

学業に加え、クラブ・サークル活動などの充実により、学生の皆さんには卒業時に「足利大学に入学してよかった」と思ってもらえるよう、委員会としても努力して参りますので、今後とも後援会の皆様からの変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

当委員会では、さらに、教務課・保健室・学生相談室などと連携し、欠席がちな学生

看護学部 の教育活動と 学生生活について



看護学部

教務委員長・学生指導委員長

沼田 加代

平素より、後援会の皆様から、ご支援・鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。今回の会報は、看護学部の教育活動および学生指導活動をまとめて、ご挨拶といたします。

さらに、看護学部では、養護教諭一種免許状も取得できるカリキュラム構成ともなっております。さて、看護学部では、看護専門職の特性から、3年次には臨地実習への誓いとして、誓願式を実施しています。ぜひ、後援会の皆様と共有を図りたく、ご紹介いたします。誓願は、仏教では誓いを立てる事を大切にしながら行動を伴う願いを誓願と呼びます。この誓願式は、本学の「和」の精神を建学の理念とした宗教行事と看護専門職として本格的に看護学実習を目前とした3年次4月の行事となります。ここ

看護学部は、看護師国家試験受験資格および保健師国家試験受験資格が取得できるカリキュラム構成となっています。このカリキュラム構成は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則と記載いたします）に基づいております。指定規則には、全国の学校の種別などを問わずに、共通し「何を学ぶか」「学ぶ内容と時間が明記されています。医療現場は日々、進歩をとげており、社会情勢に合わせて随時、見直しがされます。新たな見直しが行われた指定規則で学び得た学生達は、令和8年度の春に、学業を修めて卒業しました。

には、近代看護教育の母フロレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日「看護の日」の精神も取り入れています。「看護の日」は看護の心、ケアの心、助け合いの心を育むきっかけになるように制定されています。今年度は、臨地実習オリエンテーションとともに誓願式を実施いたしました。3年次生は、臨地実習を目の前に、白衣を着用した学生達の誓願式の姿は、言葉では表現できないような凛とした姿でした。ちょうど、今期のNHK、朝の連続ドラマ小説は、栃木県大田原市出身の大関和をモチーフにした看護師が主人公です。本学は大関知の展示もあります。これまで、生涯にわたり看護の改革に貢献されてきた看護の精神を学生達も受け継いでいく、受け継いだ精神を絶やすことなく引き継いでいくことが肝要です。臨地実習は実習受け入れ先の病院などからのご支援のもとに成り立ち、学生達は実習いたしますが、それだけに緊張感もともない、なお一層、勉強や自己管理も必要となります。

それぞれが、看護専門職の出发点ともなるべく看護基礎教育の4年間で必要な学業を修め、さらには、大学生活も充実した学生生活になるよう、教職員は教育活動と学生生活の支援に力を尽くして参ります。今後とも後援会の皆様からのお力添えと保護者様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

就職支援の 取り組みと現状



キャリアアセンター委員長

仁田 佳 宏

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関しまして、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。2025年度の内定率（留学生を含む）は、工学部が98.1%（就職者数207名／就職希望者211名）、大学院修士課程92.3%（就職者数12名／就職希望者13名）、看護学部95.9%（就職者数73名／就職希望者70名）となりました。

コロナ禍により、就職活動は大きく変化し、説明会や採用選考はオンラインと対面が併用されるようになり、その状況は変わらず現在に至っております。また、2024年度より就職活動の時期が早まり、2025年度は3年生後期の9月より、就職選考を始める企業が多くなつてきてお

ります。このような状況のもと、学生は就職活動を行い、前年度と同様に多くの内定を得ることが出来ました。これも後援会の皆様のご支援あつてのものと、重ねて厚くお礼申し上げます。2025年度も、「キャリアアップリッジ・プログラム」と称した教員とキャリアアセンターが連携して学生と企業をつなぎ、希望にあつた就職を実現するための従来からのきめ細やかなサポートを続けております。

3年生のキャリア科目として単位認定する夏季休業中の長期インターシップでは、足利商工会議所との連携を強め、地元企業との長期インターシップも積極的に進めております。インターシップに参加した学生は、現場での作業を通して学んだことをまとめ

た日誌について、企業様からはご評価を頂いております。

工学部では、10月15日及び11月14日に、東京方面145社、北関東方面137社の企業様にご参加頂き、教員と面談を行う、就職情報交換会を開催いたしました。

12月2日に積尊成道会法要及び特別講演会を開催いたしました。特別講演会の講師に渡邊建設株式会社、総務部長 堀哲也様を招き、建設業界、建設DXに関してのご講演頂きました。

学生は熱心に聴講し、そして講演後に質問し、就職活動の本格的なスタートに向けて良いきっかけになったと思います。

「学内企業発見セミナー」を

参加し、高い満足度が得られました。

2月18日～19日の2日間において、対面で開催いたしました。延べ160社の企業様にご参加いただき、2年生、3年生、修1年生（留年生含む）が参加致しました。学生は、熱心に説明を聞き、活発に質問している姿を頼もしく感じました。

看護学部では、例年通りに進

その他に、学生の資格取得支援や「保護者のための就職応援ブック」の制作を通して、学生の就職活動を支援することができました。また「保護者のための就職応援ブック」については、2025年度からweb版として、学年を問わず閲覧できるようにしました。

すべての学生が希望の企業に就職できるように、後援会の皆様と共に、学生と教職員が引き続き連携できればと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

令和8年度 足利大学後援会役員一覧

	役職	氏名	学生所属	学年
1	会長	阿部 誠	システム情報	3
2	副会長	上岡 太	看護	3
3	副会長	齋藤理絵子	建築・土木	2
4	会計	柳澤 光子	システム情報	2
5	監事	坂本 雅俊	電気電子	4
6	監事	刑部美稚子	看護	3
7		川村 千恵	看護	3
8		川澄由紀美	システム情報	2
9		青木ユミ子	看護	2
10		大野 晴代	システム情報	4
11		栗田 京子	建築・土木	4
12		幸田 薫	看護	4
13		小林 広美	看護	4
14		川上千賀子	建築・土木	3
15		川田 高弘	建築・土木	3
16		天谷 怜実	システム情報	2
17		渡辺由美子	看護	2
18		浦沼 弘美	建築・土木	1
19		栗原 恵子	建築・土木	1
20		鶴見 英樹	建築・土木	1
21		伊藤 寛毅	ライフデザイン	1
22		木暮 教昌	看護	1
23		津久井麗華	看護	1
24		蓮本 泰則	看護	1

令和7年度
足利大学後援会収支決算書
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

収 入 の 部 (単位 円)

科 目	予 算 額(A)	決 算 額(B)	差異(B)-(A)	摘 要
繰 越 金	28,558,882	28,558,882	0	
会 費	25,475,000	25,375,000	△ 100,000	1,015名分(@25,000円)(工学部710名、看護学部305名)
雑 収 入	300,000	293,929	△ 6,071	学生災害傷害保険異動返還金・クラブ援助金返金他
計	54,333,882	54,227,811	△ 106,071	

支 出 の 部 (単位 円)

科 目	予 算 額(A)	決 算 額(B)	差異(B)-(A)	摘 要
1 運 営 費	2,400,000	1,873,682	△ 526,318	
会 議 費	1,000,000	916,373	△ 83,627	後援会総会・理事会等諸費用・退会役員記念品・弁当代
事 務 費	500,000	360,000	△ 140,000	事務費一般
印 刷 費	250,000	184,105	△ 65,895	後援会報・封筒(2,000枚)印刷
通 信 費	650,000	413,204	△ 236,796	大学通信・後援会総会通知発送費1105通
2 学生助成費	17,000,000	11,877,172	△ 5,122,828	
学生研究補助費	500,000	101,712	△ 398,288	学会登録費・発表交通費等
クラブ援助費	5,000,000	3,253,967	△ 1,746,033	参加費・連盟費・交通費・消耗品等
学生活動費	5,500,000	4,803,313	△ 696,687	わたらせ祭補助・わたらせ祭模擬店経費
卒業記念費	4,000,000	2,493,800	△ 1,506,200	卒業アルバム制作代
保 険 料	2,000,000	1,224,380	△ 775,620	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	8,000,000	4,191,820	△ 3,808,180	
就職推進補助費	2,000,000	525,000	△ 1,475,000	成道会講演料
厚生事業費	3,000,000	1,145,820	△ 1,854,180	資格取得支援・抗体検査補助・朝食サポート
教育環境援助費	3,000,000	2,521,000	△ 479,000	宿泊補助・学内テーブルベンチ整備・クラブ棟アンテナ撤去
4 慶 弔 費	300,000	151,900	△ 148,100	入学式等献花代 香典 他
5 雑 費	100,000	0	△ 100,000	
6 積 立 金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予 備 費	6,533,882	0	△ 6,533,882	
8 繰 越 金	0	16,133,237	16,133,237	
計	54,333,882	54,227,811	△ 106,071	

積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	30,000,000
一般会計より	20,000,000
合 計	50,000,000
支 払 金 額	0
残高(繰越金)	50,000,000

上記のとおり相違ありません。

令和8年3月31日

足利大学後援会 会計 刑 部 美稚子

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和8年6月11日

足利大学後援会 監事 上 野 ゆり子
監事 大 野 晴 代

令和8年度
足利大学後援会予算書
(令和8年4月1日～令和9年3月31日)

収入の部 (単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	16,133,237	28,558,882	△ 12,425,645	
会費	22,200,000	25,475,000	△ 3,275,000	工学部 606 名分、看護学部 282 名 (@ 25,000 円) ※ 5 月在籍数、休学・留学・留年除く
雑収入	300,000	300,000	0	
計	38,633,237	54,333,882	△ 15,700,645	

支出の部 (単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,400,000	2,400,000	0	
会議費	1,000,000	1,000,000	0	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	500,000	500,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会報発行印刷代 他
通信費	650,000	650,000	0	後援会総会通知発送費・後援会報 発送費・大学通信発送費 他
2 学生助成費	17,000,000	17,000,000	0	
学生研究補助費	500,000	500,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	5,000,000	5,000,000	0	クラブ活動援助費
学生活動費	5,500,000	5,500,000	0	学生自治会援助金・わたらせ祭運営補助 等
卒業記念費	4,000,000	4,000,000	0	卒業記念アルバム作成費
保険料	2,000,000	2,000,000	0	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	10,500,000	8,000,000	2,500,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	5,500,000	3,000,000	2,500,000	学食／朝食補助・情報処理資格試験 補助・宿泊補助 他
教育環境援助費	3,000,000	3,000,000	0	厨房設備整備・照明設備・健康増進器具
4 慶弔費	300,000	300,000	0	入学式献花・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 積立金	0	20,000,000	△ 20,000,000	
7 予備費	8,333,237	6,533,882	1,799,355	
計	38,633,237	54,333,882	△ 15,700,645	

積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	50,000,000
積立金取り崩し	0
一般会計より	0
合計	50,000,000

令和7年度の足利大学は、学校法人足利大学として100周年を迎える節目の年でした。一方で学生活動に目を転じると、学生生活の一番のイベントであるわたらせ祭は、コロナ禍のオンライン実施期を経て、当たり前のように対面実施ができるようになりました。コロナ禍がわたらせ祭に及ぼした影響は少なくなく、先輩から後輩へと受け継がれてきた対面実施のノウハウは、一度リセットされることとなりました。そのような中で、学生たちはわずかに残された記録、もしくは全く情報がない状態から祭を企画し、盛り上げるべく知恵を絞り、見事に成功させています。学生たちが力を合わせ一つの事を成し遂げた瞬間です。後援会の皆様におかれましては、わたらせ祭においては、学生活動費として多大な経費支援をしていただいております。また、金銭面だけでなく、お忙しい中、模擬店をご出店いただき、学生と一緒になつてわたらせ祭を楽しみ、盛り上げていただいていることが、大学スタッフとしては何よりも有難く、嬉しく思うところです。

また、令和7年度は学内環境の向上にも後援会の協力を賜っております。学生の休み時間の居場所であるピロティや図書館前スペースにテーブルとベンチをご寄贈いただきました。ベンチ設置後は多くの学生が利用している姿を目にするようになりました。令和8年度は、このオープンスペースに照明を設置していただくこととなりました。その他には工・看護学部の昼食費の補助、大前キャンパス大学食堂にスチームコンベクションオーブンを寄贈頂き、本城キャンパス同様のメニューが提供できるようになります。

最後に、後援会の理事や会員の皆様からのご意見・ご要望につきましても、事務局としても真摯に受け止めて、学生への支援や満足度の向上に向けて、より良い方策を検討・実施してまいります。今後ともぜひ貴重なご意見をお寄せいただければと存じます。

引き続き、後援会会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

事務局 便り